

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月28日

協議会名:河内長野市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス	<p>【前回評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業の適切性については評価できる。今後も、効果的な利用促進、運行内容の見直し等進められたい。 ●広域からの集客も考慮した周遊観光の情報発信等、関係者で連携し、需要の掘り起こしを進められたい。 ●バスロケーションシステム等のICT活用について、高齢者等へも地道な活動を行い、抵抗感の払拭等に努められたい。 <p>【反映状況】</p> <p>⇒広域からの集客を考慮し、市公式facebookを活用した情報発信の回数を積極的に増やした。また、隣接市と連携し、ホームページに他市の観光施設の紹介も掲載する等、需要の掘り起こしに努めた。</p> <p>⇒ICT活用について抵抗感や苦手意識の高い高齢者に対しては、福祉部局と連携し、スマホ教室において、電車・バスの検索方法やバスロケアプリの紹介等を実施し、抵抗感の払拭に努めた。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>目標:輸送人員増減(対前年度比)増加(+1%) 維持・減少幅抑制(△5%以内)</p>	<p>観光需要の掘り起こしについては、今年度、文化庁の日本遺産の認定を受け、観光部局では「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」をテーマに市外から来訪者の誘致に力を入れていることから、需要に対応できる公共交通網の確保や、観光との連携による公共交通の活性化を図る。</p> <p>スマホ教室等の啓発活動は定員の関係で1度に多くの人に発信することが難しいため、市のイベント等様々な機会を活用して、できるだけ多くの人に周知していく機会を検討する。</p>
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス2(奥河内くろまろの郷経由系統)			A	
南海バス株式会社	路線バス小深線2(石見川系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>目標達成【輸送人員】 目標:維持若しくは減少幅抑制 結果:増加(対前年度比103.0%)</p>	
南海バス株式会社	路線バス高向線1(高向起終点系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>目標達成【輸送人員】 目標:維持若しくは減少幅抑制 結果:抑制(対前年度比99.9%)</p>	
南海バス株式会社	路線バス天野山線5(旭ヶ丘系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>目標達成【輸送人員】 目標:維持若しくは減少幅抑制 結果:増加(対前年度比103.3%)</p>	
南海バス株式会社	路線バス天野山線4(天野山起終点系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>目標達成【輸送人員】 目標:維持若しくは減少幅抑制 結果:増加(対前年度比104.7%)</p>	
南海バス株式会社	路線バス天野山線3(サイクルセンター系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>目標達成【輸送人員】 目標:維持若しくは減少幅抑制 結果:増加(対前年度比106.9%)</p>	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月28日

協議会名:	河内長野市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>河内長野市は大阪府の南東端に位置し、人口約10万5千人、面積は109.63km²と府内で3番目に広い。市域の約7割を森林が占め緑豊かな環境である一方、住宅団地が点在するため公共交通は市民生活を支える大切な交通手段である。</p> <p>しかしながら、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの変化などの要因により、路線バスやコミュニティバス等の公共交通利用者が年々減少を続けており、持続可能な公共交通を確保することが極めて厳しい状況にある。</p> <p>そのため、住民、交通事業者、行政などの関係者による協働の取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・充実を図る必要がある。</p>